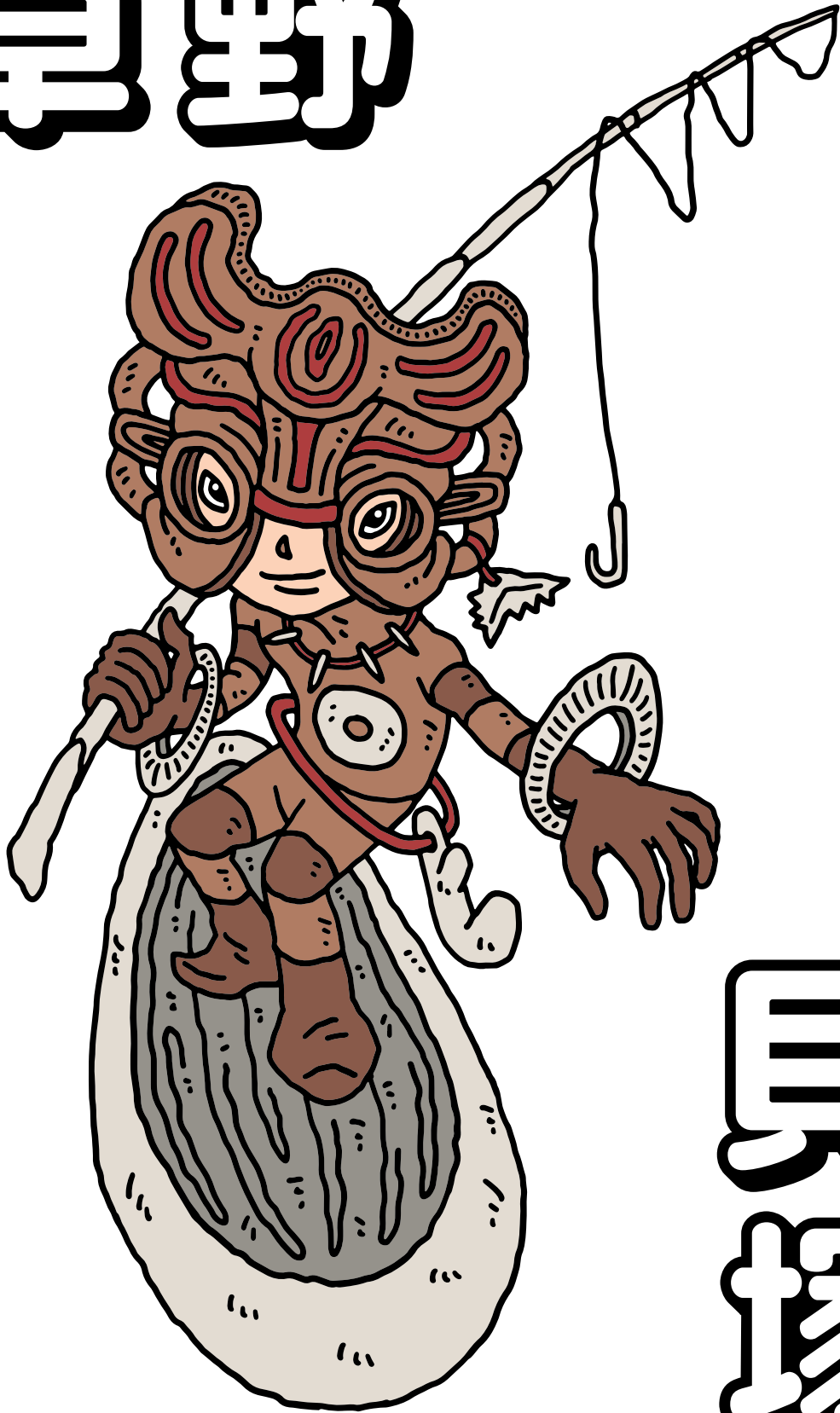


Vol.1 概要

草野



貝塚

1 草野貝塚の概要



	ふるさと考古歴史館
	草野貝塚 (鹿児島市下福元町)

草野貝塚はセツ島の崖に
作られた貝塚です。

昭和56年から昭和58年
(1981年～1983年)にかけて
鹿児島市による発掘が行われました。

草野貝塚は、およそ 4500 年前から
3300 年前の縄文時代後期の遺跡です。



貝塚からは、貝だけではなく
様々な道具が出土します。

当時の人々が生活に使用した道具たちです。



同じ場所に、長い時間をかけて
モノを捨てることで、貝塚が作られます。

貝同士が密に折り重なることで、
土の中でも分解されずに現代まで残りました。

2発掘作業の様子



貝層が斜めに堆積していることから、
貝塚は崖に沿って形成されたことが分かる。
さらに調査するため、部分的に壁を残して
掘り進めている。



表面の土を取り除き、貝層を
露出させた状態。

貝塚が形成された崖の上には平地が広がり、多くの土坑跡
が確認された。また土坑跡からは、弥生、古墳時代の遺物
も出土している。



3 出土遺物



① 台付皿

刻まれた文様は赤く染色されている。



② 軽石製品

円形に加工され、さらに中央に孔があげられた製品。用途は分かっていない。



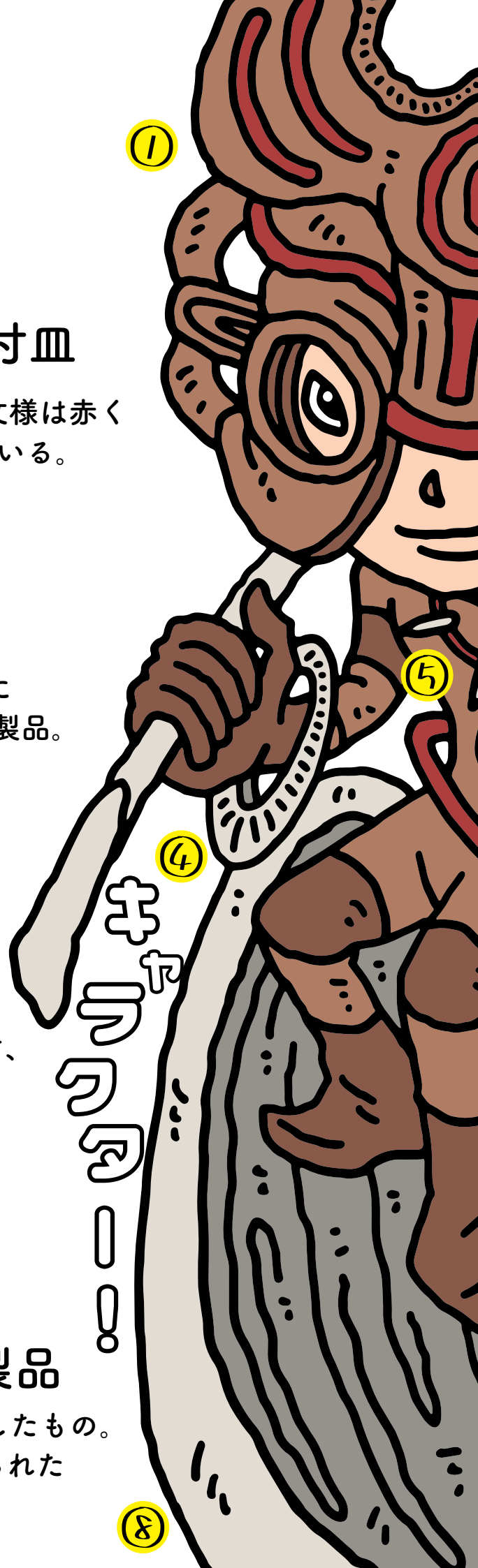
③ 牙製垂飾品

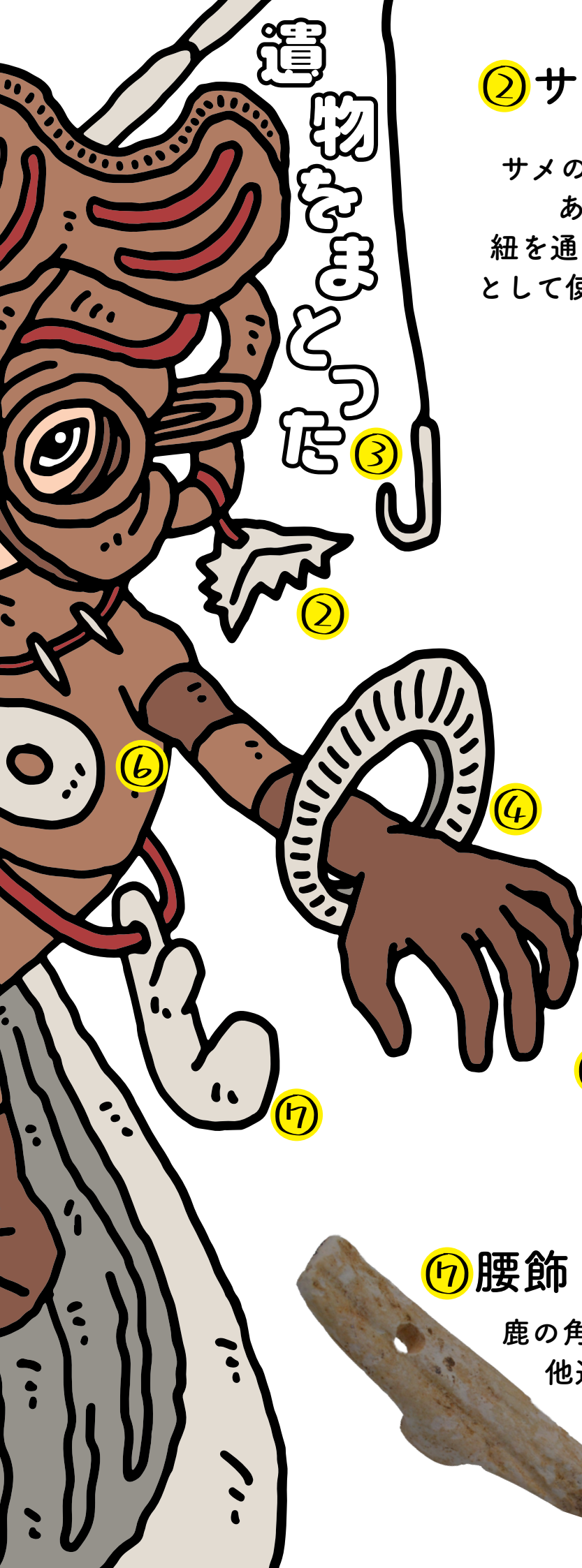
イノシシ等の牙に孔をあけ、紐を通し身に着けていた。おしゃれなアクセサリ。



④ 船型軽石製品

船の形を模して軽石を加工したもの。航海の安全や、大漁を祈願して作られたものだと考えられている。





遺物をまとった

② サメの歯製耳飾り

サメの歯に孔をあけたもの。
紐を通し、耳飾りとして使用されていたと考えられる。



③ 骨製釣り針

獣の骨を加工して作られた釣り針。
草野貝塚では、鹿角製の釣り針は出土していない。



④ 貝輪

殻頂部を切り取り、輪状に加工したもの。表面も磨き上げている。



⑦ 腰飾り状製品

鹿の角で作られたアクセサリー。
他遺跡の出土例から、腰に着けていたのではないかと考えられている。



